



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第十三号〕

夏至 六月二十二日



## おはらい町の七夕まつり

梅雨どきのおはらい町は、一年のうち一番静かなときかもしれません。そぼ降る雨を聞きながら、おはらい町では子どもも大人も集まって七夕飾り作りが行われます。

おはらい町通りの六十数軒が入会するおはらい町会議が声をかけて、七夕飾りをするようになって十年以上。毎年、願い事を書く短冊を八千枚と、飾り付けをする大笹の用意をするのが六月の中ごろです。

「みなさんこの町に来ると、何かお願い事がしたくなるのでしよう」とおはらい町会議の会長さん。いざ、願い事を一つ書こうと思うとあれもこれもと難しいもの。かつては字や裁縫が上手になるようにと習い事の上達を星に願いましたが、近頃はお金がたまりますようとお金にちなむものが多いとか。これもご時世なのでしょうか。

古代中国で生まれた七夕伝説。日本には、奈良時代のころに伝わり、貴族たちが琴を弾いたり、詩歌を作ったりしてお祭り行事に発展しました。江戸時代には「五節句」の一つに数えられ、ふつうの家でも笹飾りをするようになりました。古くから霊力があると信じられてきた竹。伸び盛りには一日に一メートル以上も伸びるといふ驚くべき生長や竹の緑の清々しさには、確かに神秘的な力が宿っているように思えます。七夕の願い事を吊るすのは、やはり竹でなければならぬでしょう。

七夕の翌日、大笹からていねいにはずされた短冊は、おはらい町の人の手によって内宮の神楽殿へ納められます。七夕の願い事が神宮へ届けられるのも、やはりお膝元のおはらい町ならではです。

文 千種清美

